

西の丸堀の土塁

この土塁は、松本城の最外堀に沿った土塁の一部である。最外堀は城郭と周辺の町や農家、商家などを分断するもので、城の第一の防御線であった。城の敷地はほぼ台形で、それぞれの面が四方八方に面しているが、この土塁は西側の一部を形成していた。

土塁の高さは 3.5 メートル以上あり、その上に高さ 2.5～2.7 メートルの土塁が築かれている。総堀の土塁上には 14 の見張り櫓（平櫓）が立ち、4 つの出入口（馬出し）と南の大手門の 5 つの入り口があった。

土塁とは？

土塁とは、16 世紀によく使われた土で固めた防御壁のことである。松本城では、城の堀に沿ってこの土塁を築き、防御を強化した。松本城に侵入しようとする敵は、まず堀の深い水面、次に土塁の切り立った傾斜に直面する。さらに、堀を越えて侵入しようとする敵は、土塁上に配置された鉄砲隊や弓隊からの砲撃に晒される。

最外周の土塁はどのように築かれたか？

最外堀を掘る際、掘った土砂を土手沿いに積み上げた。そして、このマウンドを傾斜させ、底辺の厚さが約 17.5m にもなる土の壁とした。この土塁は、最外堀の周囲 1,940m をすべて覆っている。当時としては、大変な時間と労力が必要な工事であった。

土塁と石垣の比較

土塁は、石垣に比べていくつかの利点がある。堀から採取した土はすぐに使えるが、石は採取し、運搬し、形を整えなければならない。石垣は石工の技術が必要だが、土塁は未熟な労働力で作ることができる。このような理由から、土塁は建設が早く、広い範囲を素早く固めるのに適していたのである。また、土は石に比べて弾丸を吸収しやすいという長所もある。石は粉々に碎けるが、土塁は銃弾に耐えることができる。